
戸建て住宅新築時における住まいづくり支援事業の現状調査 支援
事業の概要および個別性の高い事業の状況

古川洋子, 平田京子, 石川孝重 743

高田光雄 [京都大学 教授・博士 (工学)]

戸建住宅を新築しようとする住まい手に対する支援事業の実態を139件の事業者ウェブサイト情報分析と6件の事業者詳細ヒアリング調査分析により解明した意欲的な研究報告で、本報告に成果が引用されている著者らの既往研究も含めて極めて興味深い。この研究の背景には、言うまでもなく、「情報の非対称性」をもつ住宅市場の存在があり、住まい手に対する情動的支援を通じて「賢い消費者」を育て、住まい手自身の選択を通じて価値ある住生活を実現するしくみを構築したいという目標がある。そのステップとして本報告を評価したい。とはいえ、住宅市場は、極めて複雑な市場である。今後は、複雑な住宅市場の中での住まい手支援の位置づけや、支援のもつ社会性や支援事業における公共介入の妥当性の検討等も期待したい。加えて、学校教育や社会教育の現場への研究のフィードバックも望みたい。いずれにせよ、さらなる研究の発展と体系化が大いに期待される研究である。

日本建築学会技術報告集, 第 18 巻,
第 39 号, 日本建築学会, 2012 年 6 月

「かぐ転防」運動の停滞を打破するための実践的研究

立川 剛, 宿里勝信, 矢尾 誠 571

石川孝重 [日本女子大学 教授・工博]

現在は地震の活動期であり、人に対する被害の軽減は急務であり、その一つとして家具転倒等の防止策への著者らの着目とその実践の試みは高く評価できる。また、名古屋さらには愛知への拡大意図、200万都市名古屋の家具転倒防止工事をすべてまかなう部隊の構築の意気込みはわかる。しかしながら、その広域拡大に対する課題への方策はいくつか述べられているものの、その効果についての検証がみえづらい。特に論文としては「かぐ転防」運動の改善策に対する客観的な根拠と市民の受け入れに対する評価などの検証が必要である。運動の展開としては、なんとといっても市民意識の向上が第一であり、本文中の改善策 A) の関連機関への具体的提言が待たれる。また、家具と壁を固定する器具の特徴の表を見ても、傷の減少観点はあっても美の観点に沿うものはない。運動効果を上げるには、いま一つ積極的な固定器具に対する新たな開発があってもいいように思う。今後期待したい。

日本建築学会技術報告集, 第 18 巻,
第 39 号, 日本建築学会, 2012 年 6 月